

バナナの大量廃材が  
デニムに変身?!

お話を伺った方

株式会社ジャパンプルー  
岸本裕樹 さん



バナナ繊維

## 企業インタビュー

株式会社ジャパンプルー

# デニムの街から生まれた サステナブルファッション ジャパンプルーのバナナデニム

—そもそも、どうしてバナナ繊維に  
たどり着いたのですか？

タイの友人が現地でお店を  
オープンするというので伺った時  
に、お店の庭にバナナの木があっ  
たので、バナナ食べ放題でいいねっ  
て言ったら、あのバナナは一度実  
が取れたら次の実はできないん  
だよと教えてもらいました。そ  
んな木があるんだって驚いて調べ  
てみたら、実はバナナ畑という  
のは、収穫した後はおいしい実  
がならないから、木を燃やして、  
また新しい木を植えるを知った  
んです。以前から、バンコクなど

国産ジーンズ発祥の地、岡山県倉敷市にあるジー  
ンズメーカー株式会社ジャパンプルーが、農園で大量  
廃棄されるバナナの茎部を再利用した「バナナデニム」  
の開発に取り組んでいます。製造段階の環境配慮だけ  
でなく、スタイリッシュで履き心地がよく、長く愛用  
してもらえるというサステナブル・ジーンズの開発ス  
トーリーを、ジャパンプルーの岸本さんに伺いました。

は渋滞がすごくて大気汚染が気  
になつてはいたのですが、排気ガ  
スだけではなくて、焼却する際  
に発生するCO<sub>2</sub>も影響をして  
いると聞いて、それはよくないな  
と。

バナナ繊維自体は10年ほど前  
から知っていたのですが、その繊  
維をデニムにして、少しでも焼  
却するものが減ればと思い試行  
錯誤を始めました。でも、バナ  
ナの茎から繊維を作るののでかな  
り繊維が固く、本来は洋服には  
しづらいんです。そこを、綿とバ  
ナナの配合を色々と試しながら、

聞き手：鴨川 光 (JEEF)



## BANANA DENIM



バナナ繊維とコートジボワールコットンの混合糸「バナナ糸」



これなら着られるというところまでこぎつけました。

いきました。コットンとバナナの繊維を混ぜたものを撚って糸にしていますが、綿7:バナナ3という配合に行きつくのに時間がかかりましたね。

「ジーンズはもともと作業着ですし、丈夫さと動きやすさとかユーザの方が期待される品質を満たすのは大変ですね。以前、バナナデニムを触らせていただいたことがありますが、通常のデニムより柔らかいくらい、肌なじみのいいような印象がありました。そこに至るまでに、実際のどのくらい試行錯誤があったのですか？」

最初からというと、2年くらいですかね。バナナデニムは、バナナの茎の繊維と、コートジボワール綿を混ぜた糸を使っていますが、糸や生地をくり返し作りながら、着やすさを追求して

コートジボワール綿は、フランスでコートジボワールの支援をされている方から紹介いただいたのですが、ラフな感じの雰囲気と、ちよつとアイボリーがかった原綿で、昔のジーンズを思わせるような理想的な綿だったので使い始めました。そして、コートジボワールの綿で作った商品の売り上げの一部を現地に還元するという取り組みをしながら、現地の農業支援をされている組合

と一緒に、水路を作る道具の提供や技術指導など、現地の農場のサポートを地道に行っています。

「バナナデニムを製造する際、環境負荷の低減について取り組まれていることを教えてください。」

わたしたちの本社がある児島という地域は、すぐ近くに瀬戸内海があるので、もともと排水規制が厳しいところ。ジーンズを作るには、縫った後に洗ったり、生地を染めるのに染料を使ったり、あるいは薬品を使ったダメージ加工などの工程があるのですが、児島ではそうした工業用水を処理してきれいにしてから川に流していくことをずっとやってきました。瀬戸内海の環境の保全を目的とした瀬戸内海環境保全特別措置法という法律があるので、そこに定められている世界的にもかなり高い基準に則って排水などを行っています。

繊維産業自体が水をたくさん使います。ここ4〜5年で、ヨーロッパの方だと水を使わないで色を落とす加工をするなど、水を削減しているという風潮が強くなっていますが、これには海外でもともと水不足が深刻な地域が多いことも関係していると思います。でも、水を使った方が商品としてはいいものができるので、やっぱり水は使いたいです。そこで、使った水を再利用して何かできないかなと考えて、同じ児島地域の染工場さんと同じ取り組み始めたのが原点です。

海外の取り組みもそれはそれでいいなと思うのですが、やっぱりいいものを作りたいという想いがあるので、水は使うけれども、汚れた水をきれいに再利用しているというやり方を選びました。今はジーンズの製造工程で使う水の約80%の水を再利用できています。

「それはすごい！環境への意識が強くなったきっかけは何ですか？」

弊社、創業者がジーンズストリートなど児島の街づくりをずっとやっていまして、児島をもっと盛り上げていきたい、児島をもっと住みやすい街にしていきたいというのを考えていました。働きやすい、遊びやすいとともに、過ごしやすい環境にいいこと、環境を汚さないこと、みたいなところもテーマにはなっていて、そこからじゃあ環境にいいもの作りをしていきたいと思いますという流れですね。

「自分たちの街をよくしようとローカルのことを考えていたら、グローバルな問題にアプローチしたというのがおもしろいですね。バナナデニムを見たお客さんの反応はいかがですか？」

バナナデニムは表面にちよつとバナナの繊維が出ています。バナナがあるところがかっこいいとかかわいいとか見た目から入

られる方が多いですね。その後で、実は〜と背景を話すとさらに興味を持ってもらえるという流れが多いですね。

「衣服の廃棄の問題には、デザインの流行り廃りが大きく関わっていますよね。長く穿いても使えるよう工夫されていることはありますか？」

長く穿き続けたいと思ってもらうために、穿きやすいシルエツトであつたり、かっこいい色落ちをするような素材を使ったり、お客さんにより愛着を持ってもらえるジーンズを作ることが大事だと思っています。あとは、破れたらリペアをするサービスなど、破れてもさらに愛着がわくような対応をして、捨てずに10年、20年と穿けるように考えて作っています。



「ジーンズは環境負荷が高いと言われますが、そこさえ変わってしまえば、ジーンズほど長く穿き続けられるというアイテムもないので、一気にイメージが裏返るという可能性も秘めていますね。」

洋服を買うとか着るにあたって、長く着ていける、長く愛用できるという視点は今後持っていたきたいと思っています。まあ、たまにはデザインで選んだ洋服を楽しんでもらうのもありますけど、それと併せて長く着られるという基準で選ぶことも今後は増えていくと思うんです。そういった目線を持ったときに、デニム、ジーンズは、長く着られることに特化した商品だと思ってもらえるとありがたいです。

「ファッション業界は、エシカルやサステナブルの意識が高まってきていて、環境省でもサステナブルファッションのWEBページがつくれるなどホットトピックになっていますが、衣服を製造する立場から、今後どんなチャレンジをしてきたいですか？」

バナナデニムに関しては、まだまだニッチなので、もつとみなさんに知ってもらいたいですね。バナナ繊維は、いっぱい作ろうと思えば作れる繊維ですし、 Cotton のように繊維を得るために綿花を育てるのではなく、食べるために植えたバナナの木から副産物的に繊維が得られるのが新しいと感じています。

バナナ繊維が普及して麻、綿

(コットン、絹(シルク)、羊毛(ウール))に次ぐ第5の天然繊維になれば、環境面にもいいですし、バナナ農家さんにもいいだろうし、多くの人にとってポジティブかなと思っているので、バナナ繊維が一般的な素材として広がって欲しいと思っています。

